

# 天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



## 我慢のできる子、できない子、将来にどんな違いが？

私たちの感覚では、当然、我慢強い子の方が周囲とのトラブルがなく、将来もたくましく人生を切り拓いていけそうだと、思われます。だからといって、闇雲に何でも我慢させるのも教育上よろしくないということも分かります。子どもの頃に、させた方がよい我慢と、させない方がよい我慢とがあるようです。自身の怪我や事故につながる事、他の子を傷つけるような事、他者の迷惑になることなどはきちんと我慢することを覚えさせるべきでしょう。

一方、我慢を教えると言いつつも、親の一方的な都合を押しつけること、子どもの自我の芽生え、自立を妨げること、運動や遊びを我慢させること、過度の譲り合いを強いること、親に甘えたいのを我慢させること等は避けるべきではないでしょうか。

子どもの我慢に関する興味深い実験があります。(昨年4月の天沼小だよりでも紹介)

スタンフォード大学の心理学者ウォルター・ミシェルが1960年代から1970年代にかけて実施した「マシュマロ実験」と呼ばれるものです。

4歳の子どもの目の前に、1個のマシュマロがのったお皿をおきます。実験者が、「ちょっとお使いに行ってくるからね。私が戻ってくるまで食べるのを待っていたら、もう1個マシュマロをあげるね。でもすぐに食べてもいいよ」と言って出て行きます。

実験の結果

1/3の子が、実験者が立ち去ったらすぐに食べてしまい、1/3の子が我慢していたけど、我慢しきれなくなって途中で食べてしまい、1/3の子が、15分間、我慢し2個目をゲットしたそうです。その子どもたちが10数年後、青年になったとき、追跡調査がされました。我慢した子どもとすぐに食べてしまった子どもの間に明らかな違いが出ていたのです。

【我慢できた子】

- ・対人能力に優れ、自己主張がきちんとできる。
- ・ストレスに強く、プレッシャーに混乱しない。
- ・困難な課題に挑戦する。
- ・様々なプロジェクトに積極的に参加する。
- ・学習意欲が高く、成績が優秀である。

【我慢できなかった子】

- ・対人関係を避ける。
- ・難しい課題や局面では、固まったり、退いたりする。
- ・小さな挫折でも動揺する。
- ・感情の起伏が激しく、言い争いや喧嘩を良くする。

また学習面でも差が出ました。大学進学適性試験で1000点満点のテストの平均点で200点の差がつかまりました。おもしろいと思いませんか？4歳の時、マシュマロを食べたかどうか、それがその子の将来とつながっているんです。どういうことかということ、将来のよい目標のために、我慢をしたり、努力をしたりすることを知っている子どもは、その後の人生においても、「マシュマロも一個！」を目標にしていたように「大学入試」「大会での優勝」といったしっかりした目標を持てるようになるのです。反対に、将来のよい目標を知っていても、「今食べたい」と、今の我慢や努力を怠った子どもは、青年になっても、今勉強すればテストや受験でよい結果が得られるかもしれないという、先の目標より、「今遊びたいから遊ぶ」、「今勉強したくないからしない」といった、その時その時の感情をコントロールできずに問題を抱えてしまうことになるのですね。

